



# 今こそ市民のいのちを守り

# くらしを応援する市政へ

桜井市で5歳の男児が食事を与えられず、餓死をして両親が逮捕・起訴されるという事件が occurred ました。

吉田ただお議員は、こうした事件を二度とおこしてはならない思いから、3月議会でも再発防止に向けて、

①わが子に検診を受けさせないのは明らかに虐待であり、その時点で親の育てに対する関心は薄いと判断して、電話だけではなく訪問や調査が必要でなかったのか。

②桜井市要保護児童対策地域協議会が適切な対策を講じていれば防げたのではないかと、徹底した原因の究明と対策を講じるよう求めました。



# 踏切の拡幅と通行の安全対策は

# 一刻の猶予もない課題だ！

市道大福・慈恩寺線 J R 貯木場踏切の拡幅と、通行の安全対策についてはこれまで4回取りあげてきた。

オークワ店の開店にともない、貯木場踏切において買い物客の車や自転車が頻繁に踏み切りを通過するため、踏切や踏切周辺の道路を利用する児童や高齢者にとってはさらに危険な踏切となる。市としてこれまでどのような具体的な対策をとってきたのか。

**谷奥市長**

現在、土地所有者の代理人と原点に戻って、底地の確認及び、保障関係などの解決に向けて交渉をおこなない、回答を待っている状態である。

オークワ開店にともなう安全対策については、大規模小売店舗立地法にもとづき、交通、環境問題について適切な対応をはかっているし、中和幹線も共用を開始される。これらを踏まえ、今後の通行量の推移を見ながら検討していきたい。

誠意と熱意のある粘り強い交渉を

**吉田議員**

踏み切りで事故があらってからは遅すぎる。相手側に対して誠意と熱意のある粘り強い交渉をおこなうよう、再度、主張をする。

**谷奥市長**

踏切の拡幅と歩道の拡幅ができていない今の時点において、児童が下校時に安心して踏切を通行できるように、オークワに警備員を配置するよう申し入れてほしいが。

開店3日間は、踏切りに警備員を配置するということをうかがっている。混雑を回避するために、北側栗殿踏切に遮断機が設置された。多くの人がご利用いただくよう指導もしていきたい。



開店したオークワ店

平成22年度桜井市一般会計予算案に反対討論をおこなう(要旨)

平成22年度の予算案には、子ども手当の創設や生活保護母子加算の復活など、市民の願いを反映している内容もありますが、いまだに人権の名による同和行政が続けられ、多額の予算が計上されています。

今日、旧同和地区の住環境や生活実態に見られた劣悪な状況はなくなり、教育や職業についても特別な施策が必要とされる状況がなくなりました。もし、必要なことがあっても一般対策で対応すべきではありません。以上、反対の態度表明をおこないます。

# 後期高齢者医療保険料の値上げ!

## 重い保険料の負担

**吉田議員**

後期高齢者医療制度が平成20年にスタートして2年が経過した。民主党は総選挙のマニフェストで「廃止」を掲げ、新政権が発足すると制度廃止を先送りし、国庫補助もおこなわなかったために、剰余金などを使って、保険料が上がる県が続出した。

奈良県後期高齢者医療広域連合も、平均保険料を前回より率で2・7パーセントの引き上げをおこなった。後期高齢者医療制度は一刻も早く廃止をすべきであるが、市長に平成20年度と21年度の被保険者、特別徴収対象者、特別徴収率、普通徴収率、一部滞納者、全額滞納者、資格証発行人数、短期証発行人数について尋ねた。

**谷奥市長**

平成20年度において被保険者数7,300人、特別徴収対象者数5,737人、特別徴収率10パーセント、普通徴収対象者2,398人、普通徴収率9・5パーセントであり、保険料の全額滞納者は47人、一部滞納者は151人、資格証・短期保険証発行はなかった。

21年度(年度途中)は被保険者7,315人、特別徴収対象者5,976人、特別徴収率100パーセント、普通徴収対象者4,287人、普通徴収率96・7パーセントであり、保険料の全額滞納者34人、一部滞納者181人、短期保険証発行は19人、資格証の発行はない。



普通徴収対象者には丁寧な徴収体制を

**吉田議員**

年金暮らしが多い高齢者のなかには、重い保険料の負担ができない人も出てくる。特に普通徴収の対象者は、経済的にも大変苦しい方々だ。寝たきりや引きこもりの人もいる。訪問をおこなって相談に応じるなど、丁寧な徴収体制をとっていただきたい。

**谷奥市長**

相当な収入があるにもかかわらず、格段の理由もなく保険料を納めない滞納者をのぞき、個々に応じた丁寧な相談等により、実情をよく把握して対応していきたい。



# 特定健康診査 受診券なしでも検診ができるようせよ

**吉田議員**

特定健康診査について尋ねたい。国は平成27年度に糖尿病等の生活習慣病の有病者・予備軍の25パーセント減少をはかり、医療費の伸びの適正化をはかることを政策目標とし、保険者に対してメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目した、生活習慣病予防のための特定健康診査(以下、特定検診)・特定保健指導を義務付けた。

**谷奥市長**

この計画の第1期は平成20年度から24年度までの5年間であり、目標値については検診が実施された平成20年度は特定検診の受診率は25パーセント、21年度の受診率は35パーセントであるが、平成20年度、21年度(年度途中)の特定検診対象者数、受診者数、受診率について尋ねたい。

**吉田議員**

市として受診率を上げるためにどのような努力をしているか。また、受診率が低い原因に、受診券が無ければ医療機関で検診を受けることができない。以前の基本健康診査のように、受診券が無くても受診できるように改善をはかっていただきたい。

**谷奥市長**

広報誌に受診の案内をおこない、地区民生委員や介護保険ケアマネージャ等、各種団体の会合に出かけて、検診や保健指導の必要性を説明して受診率の向上に努めている。受診券がなしでも検診を受けられるようにとの要望だが、重複受診等克服しなければならぬ問題もあり、今すぐ実施することは難しいが、医師会等関係機関と連携を取り問題を克服していきたい。



政治革新の道しるべ  
真実つたえ希望はこぼ

**しんぶん 赤旗**

日刊●月2,900円  
日曜版●月 800円

「こんな社会でいいのか」  
「人間らしく生きたい(切実な願いを伝えて)」  
「地球温暖化、食糧危機、資本主義の限界  
(世界の今をリアルに)」

生活相談は、どうぞこちらへ

日本共産党桜井市議会議員 吉田ただお事務所  
桜井市粟殿1029-5 吉本ビル2階  
TEL・FAX0744-46-4930